

平成 27 年度第 1 回南国市行政計画審議会 議事録 <第一部>	
日 時	平成 27 年 4 月 28 日（火曜日）14：00～15：35
会 場	南国市市役所 4 階大会議室
出席者	別紙名簿参照(委員 30 名中、28 名参加)
議 題	<p>【第一部】南国市総合計画</p> <p>(1) 第 3 次南国市総合計画（現行計画）の概略について—資料 1</p> <p>(2) 市民アンケート調査結果について—資料 2-1～3</p> <p>(3) 現行計画点検・評価について—資料 3</p> <p>(4) 今後の進め方について—資料 4</p> <p>(5) その他</p>
配布資料	<p>《南国市総合計画の資料》</p> <p>【資料 1】第 3 次南国市総合計画基本構想の全体構成</p> <p>【資料 2-1】市民アンケート調査結果報告書</p> <p>【資料 2-2】市民アンケート調査 自由意見とりまとめ結果</p> <p>【資料 2-3】市民アンケート調査、現行計画点検・評価の概要版</p> <p>【資料 3】現行計画点検・評価報告書</p> <p>【資料 4】第 4 次南国市総合計画策定方針</p>
会議の内容	<p>○市長あいさつ</p> <p>○事務局より説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布資料について ・審議会の位置づけ ・組織体制について ・委員、市関係者、事務局紹介 <p>○会長・副会長選出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会長に受田浩之委員、副会長に浜田英城委員を選出 <p>○会長挨拶</p> <p>○市長より審議会へ諮問</p> <p>○市長退席</p> <p>○事務局より議事進行について説明</p> <p>【第一部】南国市総合計画</p> <p>（会長）それでは議事進行を務めさせていただきます。改めてよろしくお願ひします。なお、この後はいろいろとまず説明を受けた後、今後の予定も含めてご議論をさせていただきたいと思ひます。委員の皆さまにはでき</p>

るだけ今後はリラックスした雰囲気でも積極的なご意見をたまわりたいと思います。ご発言をされる方は挙手をした後に、恐れ入りますが、委員の皆さまのお名前を名乗っていただいてから、マイクを使ってご発言いただきますよう、よろしくお願いいたします。それでは、第一部南国市総合計画について、まず（１）～（３）すなわち（１）第３次南国市総合計画（現行計画）の概略について、（２）市民アンケート調査結果について、および（３）現行計画点検・評価について、事務局より一括して説明申し上げたいと存じます。ご意見ご質問はこの３つの説明が一連終わりましたからお受けしたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。それでは資料１～３に基づいてご説明をお願いします。

（事務局） 資料１～３について説明

（会長） はい、ありがとうございます。ただ今、一連の説明をいただきましたが、これまで、今年度を含めて第３次の南国市総合計画に関する取り組みが一区切りを迎えることとなります。この第３次の総合計画自体が、どういう内容であったかを踏まえて、南国市民の皆さまにアンケート調査を悉皆的に行って、そのとりまとめを行っているということで、概略をご説明いただきました。結果に加えて、一部考察も説明していただいておりますが、この解釈に関しては、色々なとらえ方ができると思います。さらに現行計画についての自己点検評価ということで、達成度合いを数値化していただいて、どこまで達成できているかということについて、客観的に評価をした結果についてもご報告をいただいたわけでございます。それでこの行政計画審議会に与えられた役割としましては、この第３次総合計画をしっかりと評価しながら、反省すべき点を反省し、またそれを第４次で我々が考えていかなければいけない、総合計画に反映していくということに尽きます。したがって、今後の第４次のこの総合計画をどのように進めていくかについても、委員の皆さまにはしっかりとご理解をしていただく必要があるかと思っております。後ほど議題の最後のところに、第４次南国市総合計画策定方針ということで、別項目で説明をさせていただきますので、今後の取り組み内容あるいはそのタイムスケジュールに関しては、そこでご説明申し上げたいと思っておりますのでございます。それではただ今事務局からご説明いただいた内容、すなわち第３次の総合計画に関して、振り返った結果、これをどういうふうにも市民目線として考えるか、あるいはそれに対するご質問とかご意見があれば、少し時間をとって意見交換をさせていただきたいと思っております。ご質問ご意見がありましたら挙手をお願いします。なかなか質問はしづらいかもしれないですけど。例えば、アンケートの結果がかなり詳細に報告をされておりました。おそらくその中には、それぞれのお立場で感じられることがたくさんあるのではないかと

思います。例えば、若い世代の方が南国市に住みたいかと聞かれて、あまり積極的に住みたいという意見がなかった。先ほど、対照的に委員としてご出席されている黒川さんが県外から来られているにもかかわらず、またこういった10代・20代に相当する年代にあるにもかかわらず、南国市に永住する、移住するといわれました。高知県にこのまま住み続けると、南国市ではないのですか。微妙なところだが(笑)。というような意見もありまして、当該の世代からみた時に南国市が魅力的な自治体になって、そこに住みたいという意見がどうやったら出てくるのか。それを考えていく、多分きっかけになるようなデータではないかと思います。ちょっと皮切りに。

(委員) よろしくお願ひします。あの一かなり綿密なこういったアンケートをとられて、南国市をなんとかしようとしてされているわけですが、結果、人口は目標よりも8,000人でしたか、5,000人少なくなってしまうというの、現状なわけですね。目標に対してですが。このアンケートで調べられた内容というのは、いかに南国市民が南国市から出ていかないようにしようという、南国市に残ってもらうためにはどうしたらいいかっていうようなことが、目的になっているように、私は見受けました。あいさつのなかでも申しました通り、私は南国市民ではなく、高知市民です。18の時、高校を卒業する際に東京に出て、38の時に高知へ帰ってきました。父の会社が今ご紹介した通り、南国市にあります。にもかかわらず、私は高知に住みました。なぜ高知に住んだかという、先ほどの黒川委員も南国に住むとは言わずに、高知県には残りたいとおっしゃったような気持ちがあったかとも思います。アンケートの中にあるのかないのかわかりませんが、人口の調査で、昼間人口という調査があります。その中で、昼間人口の中で南国市民と南国市外の県民、昼間人口。私などは昼間人口の中での南国市民なわけですが。ところが、私の会社は30人の従業員が来ますけども、その中で南国市民は10名しかいない。20名は市外の人間です。そういう市外の人間に対しては、南国市の情報はほとんどないのです。「何とか南国」という市報があるが、そういうものを昼間南国市に行きながら、全く目にする機会がないのです。全く南国の情報はありませんし、例えばアンケートの中で南国市には仕事がないというが、私にしてみれば、南国市は仕事がある場ということになりますし、交通の便が悪いというが、そんなに交通の便も悪くはなく、自宅から会社まで車で10分もかけたらすぐ着いている。そんなに交通の便は悪くはない。人口減というが、どうしたら人口増になるかというためのアンケート調査というか、まさに私も会社もそうだが、宮地委員の四国銀行さんだって、多分南国市民よりも市外の行員さんの方が多いのでは。まあ、会社の形態が違うので、単純には比較は

できないですが、それから黒川委員にしてみても、県外の方です。県外の方が南国市っていうものをみて、どんなふうに思っているのかということをやはり調べられるとかいうことも今後はされていく必要があるのではないかと思います。

(会長) はい、貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。今の点については、この後、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を考えていく上でも、非常に重要なポイントをご指摘いただいていると思います。まさに、昼間人口・夜間人口の動態がどうなっているか、恐らくデータはお持ちだと思うんですけど、そういった近隣自治体や移動も含めた詳細な解析データも必要であるということは1点あると思います。同時に域内流出が起こらないようにという考え方で、域内からの流入をどう呼び込んでいくかという視点での調査ではないのではないかと。まさに同感です。そういう点をさらにデータで求めていって、貴重な情報源として計画あるいは戦略に落とし込んでいく。ここの部分を今いただいた意見をもとに、やはり事務局であるいは資料をお持ちであれば、ご披露いただくことにしたいと思います。ありがとうございました。続いていかがでしょうか。

(委員) あの南国市は高知県の一番の地域的には恵まれた地域だと思います。しかし、南国市だけでなく、高知県全体の経済力が弱い。働く場所がない。そういった中で、お父さんお母さんおじいさんおばあさんは、一生懸命働いて、子どもを養育し、そして高校を卒業すると大学は全部県外へ行く。県外へ行って、向うへ定住してしまうということが、高知県ではずっと続いてきたと思うんです。人材流出の高知県と。だから高知県の経済力が全然付いていかないし、そのあたりについて、やっぱり郷土を愛するという、大学は東京に行ったけれども、帰って来られるような土壌をつくらなければいけないと思うのですけれど、そのあたりはなかなか大変な問題だと思いますが、検討していただきたいと思います。

(会長) はい、ありがとうございます。先ほどのご意見を踏まえて、まず流出をどう抑えるか、それから流入をどうやって呼び込んでくるか。あるいは流出した方々にもう一度Uターンして戻って来てもらうという視点ですね。そのへんもポイントとして人口動態ではそれぞれの階層として議論していかないといけない部分だと思いますので、今のご意見もしっかりデータとして、次回はそれをご披露すると同時に、もしないようであれば、今後総合戦略をつくっていく時の礎として、情報として集めていきたいと思っています。貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。続いて、もう一方くらいいただきましょうか。

(委員) この資料、分析資料で、市民参加の地域協働の確立と推進とあると思いますが、それはただ市のほうで、私どもの岡豊地区は、区長会でこ

の問題はかなり討議しております。やはり補助は何もないので、ただ施策としてやっているのですが、区長会の集合体です。岡豊にある大字、各部落の集合体であります。それで市のほうから区長会というのは、認められていない団体にとられていると思うんですが、これは市民の意見というのは一番大切だと思うんですが、もう少しですね市のほうで、活動をテコ入れしていただいたら、活発に活動すると思うんですね。なかなかですね啓蒙しないと各部落の部長さんは参加しないんですけど、無理やり来て討議してやっておりますが、それが非常に大切だと思うんですが、これでだいぶ改善されると思うんです。南国市は市全体の区長連合会もないので、岡豊地区の区長連合会は昔からずーっとあって、引き継いで昔はそういう深い論議はしなかったと思うんですが、私の代になって、引き上げております。それでだいぶ変わってくると思うんです。むしろ、避難所の整備とか要望事項があって、この会にですね、前は要望書をつくってですね、県や市に上げるつもりにしておりました。結局はPTAと一緒に県の方へは要望書を上げました。なかなか要望書をあげると大変なこともあります。責任の問題もありますけど、これをもう少し市の方でテコ入れしていただいでですね、第1章の点数の低いのもかなり違うと思います。それとですね、小学校の運動会なんかに行きますと、岡豊小学校だが、非常に生徒数がびっくりするほど少ない。以前の半分以下になっていると思うんですけど、これは結局人口減ということで。それとよく聞くと、家を建てたいが建てる人がいない。南国市の岡豊地区に団地から自分の家があれば住みたいが、建てる家がないということと、それでどこへ行ったかといったら、後免に最近建売ができました。そこへだいぶ6家族くらい引っ越していきましたが。自分の知っているだけでも。それは南国市内で動いただけで、外へ出て行ったわけではないんですが。やはり地域的にですね住宅整備もやはりですね人口減の間に住宅整備も必要ではないかと思います。土佐市と野市へ行ったらわかりますけれど、すごい発展しています。それは都市計画の調整区域、都市計画に入っていない地域ということで、比較的自由に、都市計画ではなくて、住宅対策がうてる、人口も増加になっているし、最後に南国市の人口を上げるだけだったら、住宅整備を推進したら簡単によその市町村から人はとれます。そういうことで。

(会長) はい、ありがとうございます。1つ目は市民参加型の地区長会をもっと活性化するために、手弁当ではなくて、それに対する財政的な支援をしたら、効果的に働くのではないかというご提案をいただきました。そして2つ目は域内での移動を実例で挙げられましたが、住宅整備の話は空き家整備とかにも波及していくのかと思って伺っておりましたけれども、住宅対策、住居対策、それをどういうふうに考えていくかというお話。も

しかすると南国市さんの場合は都市計画があるので、実際、市街化区域、市街化調整区域、ここをどういうふうに考えていくかという都市計画の考え方も重要であるというご指摘だったと思います。恐らく、皆さん全員からご意見をいただきたいところであるんですけど、ちょっとこの後さらに第2部もごございますし、この総合計画の策定にあたっては、一旦意見交換はここで区切らせていただき、今後どのように進めていくかというのを、少し事務局から説明をいただいた上で、もう少し時間の許す範囲でご意見をたまわりたいと思います。よろしいでしょうか。はい、ありがとうございます。そうしましたら、続いて資料4に基づいて(4)の今後の進め方について、ご説明お願いいたします。

(事務局) 資料4について説明

(会長) はい、ありがとうございます。ただ今事務局から今後の策定に向けて具体的なスケジュールのご紹介をさせていただきました。先ほどの第3次の評価とか達成度の話もございましたけれども、それに準ずる第4次の計画を基本構想と基本計画、そしてそれを受けてのパブリックコメント等を経て、最終的に来年1月にこの審議会として具体的なこの総合計画を市長に、諮問に対して答申をするということで一連の作業ということになっております。委員の皆さまにはその途中途中でこの審議会を開催して、ご意見をたまわるということになります。それぞれのタイミングで、例えば、6月上旬に開催をされる第2回目においては、基本構想のたたき台が出てきて、それに対してご議論をいただくということになります。その次に関しては、基本計画を同様にするという事になってまいります。そしてそれぞれのタイミングで委員の皆さまには、基本的には事前にそのたたき台をお示しして、審議会に臨むにあたって、少し中身をご覧いただく、そういう時間的余裕もとらせていただこうと思っております。そういうことで、次回審議会においては、そのたたき台に対するそれぞれのお立場からの様々なご意見をお寄せいただく。そういうステップということになります。当然ながら、これだけの人数が一堂に会して、限られた時間でございますので、2回目以降は要領よくどんどんご意見をいただくということが必要になるかと思えます。さらにはここでは消化しきれなかった内容については、例えばその審議会終了後、委員の皆さまから文章でご意見をいただくというようなことも通じて、できるだけ委員の皆さまの想いをこの審議会では共有させていただきたいと思っております。そういうことで、次回以降の審議会の進め方について、まずご理解いただければ幸いです。さて、この審議会の進め方にあわせて、先ほどありましたその議論の基礎資料になります第3次についての自己評価であるとか市民の皆さまからのアンケート結果、こういったものを全てで構いません。今日ご発

言がございましたら、もう 15 時 30 分まで 10 分弱でございますけど、ご意見をたまわりたいと思います。

(委員) 先ほど岡豊のお話が出てきたと思うんですけど、私の今住んでいるところが南国市の久礼田地区にいますが、似たような環境ではあると思うのですが、人口減の問題ですよね。すごく聞いていまして、後免のほうへ 6 人ほど移住されたというお話も聞いたんですが、私がお家を建てた時もすごく苦労しまして、といいますのも私の実家は実は岩村のほうになるので、そちらのほうに土地が、田んぼがありましたので、実家の方に建てようとしたらちょっと、いろいろ法律の名前は忘れたんですが、そこには建てれないと。田んぼを残さないといけないということがあったみたいで、自分の土地に建てれないのかと、結局あきらめまして、妻の実家が近い久礼田のほうで探そうかと、その一番の理由は自然環境が豊かで、すごく良いところだと気に入っていたので、そこにぜひ建てたいというところで土地を探し始めました。ところがですねまたそこでも土地を見つけてここに気に入ったと、ここに建てようとしたところ、その土地に、その地域に 20 年以上住んでいないと土地を購入できないということを、不動産屋さんから言われて、いや大丈夫なのかと思ったら、妻のほうが同じ地域に、調べてみたら 20 年以上住んでいて、大丈夫よ、ということで結局ようやく買えたという経緯があるんですけど、非常に南国市内の中でも市街地の中心部と外側、今後心配しているのは我々若者が、今の保育所もそうなんですけど、どんどん子どもの数が減っている。結局移住しにくい環境じゃないかなと。その土地の人しか住めないとなると、なかなか人が増えていかないかなという環境があって、アンケート結果でそういうところが、ちょっと具体的にもうちょっと掘り下げて調べているアンケートとかあったら、ぜひ見たいと今思いました。またぜひそういうのも含めて、今後議論していただけたら思いまして。よろしくお願いします。

(会長) はい、ありがとうございます。住みたいのに住めない状況がありうるということですね。多分、市街化調整区域の問題ですか。そういった点もおありかと思えますけれど、先ほどの議論の中にもありましたように、定住人口を増やしていく時の具体的な方策として、移住も含めて、住みたい方に住居を提供しながら、住んでいただくという時に障害になっている、ネックになっている部分も当然知っておかないといけない、という事だと思います。ぜひ今のご意見も参考にさせていただいて、それに関連するような情報もいただければと思います。ありがとうございます。はい、もう 1 つご質問をいただこうと思います。

(委員) 私が感じたのは、このアンケートも含めてなんですけど、私は若年女性の人口増加に取り組むというふうなことが根幹ではないかなと感じま

す。若年女性の範囲は20～39歳だったと思いますが、その若年女性を増やすというふうなことが、一番全体の人口増加につながるのではないかなど。その問題については、働く場所の問題の解決、それと先ほどいわれましたけれども、家を建てる時に定住ですね、その時の南国市は市街化調整区域がほとんどになっておると思いますので、そのへんの根っこは十分あると思います。そういうふうなことの解決を含めてのことなんですけど、やはり全国的にみてもですね、若年女性の増加をどうするのかというふうなことが柱になっておると、そのように感じております。これを解決するために色々取り組んでいったらと思います。

(会長) ありがとうございます。この後の総合戦略の1つの柱として、子育て環境も含めて、女性に対してというようなところも恐らく出てくると思います。先ほどの消滅可能性自治体ってあんまり良い言葉ではないんですけど、あの将来予測に関しても、おっしゃる通り、20代・30代の女性ということなので、39歳までの女性を推計した結果で議論していたというのは事実だと思います。そういう意味で、この後第2部でも議論していくポイントにもなりますので、今のご意見に関してはしっかりと意識をしておきたいと思います。と言いつつですね、さっきもありましたけれども、この構成からみると、男女比率があまり良くない感じがします。良くないといったら良くないですが。我々は今先ほどの西山課長にご紹介していただいたように、私はまち・ひと・しごと創生本部の石破大臣の会議にも毎月出席をしています。今後また別の会議にも出席予定なんですけど、それ以外にも文部科学省の色んな審議会に出ていまして、国の審議会は必ず男女比率というのを相当意識している状況がございます。なかなかフィフティフィフティでというところまではいかない可能性が多いようなんですけども、ちょっと拝見すると、ひずんでいるのかなど。もうちょっと女性の数が、多分事務局は努力をされたのだろうけれど、ちょっと女性の比率が少ないかなというのが気になるところです。それとあわせて、今日はちょっと女性の委員の方からご意見いただいているので、ぜひともこのあたりでご発言を一ついただいて、1部を終わりたいと思うんですけど、いかがでしょうか。

(委員) 先ほど紹介の時にも言いましたが、私は男女共同参画委員もさせていただいておりますが、その委員の中でも若干やっぱり女性が少ない。そしてやはり世の中には男女ともに半々くらいいるにもかかわらず、この場でも事務局の方に言わせていただきました、名簿を見た時にすごく女性が少ないので、何とかならないですかと言ったらいざとなったらなかなか集まらないということなので、せめて私のようなものでも意見を述べさせてもらえないかと思って、ここにおりますが、先ほど皆さまもおっしゃっ

ておったんですけど、今回の今までの皆さまの発言を聞いていると本当に南国市が5,000人くらい人口が減ってますけど、でもちょっとそこに大野先生がいらっしゃるが、偏ってますよね。大篠地区とか香長中学なんかはいまだに人口が増えている。中山間地域においては非常に減ってる。先ほども委員の方がおっしゃいましたが、この地区から後免のほうに移られているといういろんな状況がありますが、同じ市内の中でも皆さんご存知のように、高知市とはちょっと違って、南北に非常に長いので、中心地が本当に限られていて、その中心地に人が非常に集まっています。かえって南や北のほうはどんどん人口が減っている。だからそれを、こっちは保育所とかも結構ありますよね。中心のほうには。でも、あの北と南のほうにはどんどん人数が少ないので、どんどん統合したりとか廃校になったりとかという状況がありますので、そのバランスなんかもどのようにしていくんだろうかな、もしこの審議会で話し合えるような機会があれば、そのようなことも話し合えればと思います。

(会長) 貴重なご意見をいただきました。ありがとうございました。今の話は相当重要で、それぞれの地域で地区ごとにみた時に、全ての地域が満足できるような将来を描けるかということ、なかなか全体で見ると偏りが出てくるというのが実態だと思うんですね。これは私自身も南国市さんからこうやってご依頼をいただいてこういう席にいますが、例えば香南市の産業振興とか、まちづくりグランドデザインとか、人生支援とかそういった委員会も委員長として、人生支援は違うが、やらせていただいたり、あるいは高知市にもかかわっていたり、須崎市にかかわったり、近隣の自治体とのかかわりも非常に深くなっています。そうすると、さっきもありましたように、昼間人口と夜間人口は奪い合いになるんです。さらに言うと高知県でみると、この高知市を中心にして6割くらいの人口がいて、これはやっぱり一極集中の縮図になってるんですね。ですからこうマクロでみたり、ミクロでみたりした時に、何をその全体最適としてベストなものとみなすか、これはものすごく重要でかつ難しい問題なんですね。今のご意見というのは非常に今後考えていく上で、ポイントとして、大切なところをご指摘いただいたと思います。なかなか結論は出ないと思うんですけども、考えていけないポイントかと思います。というところで、すいません、2回目以降、もっと活発なご議論を展開していきたいとは思いますが、本日はこれが第1部で、第2部が待っているの、一旦ここで議事に関してはしめさせていただきます、(5)その他に移ってまいりたいと思うのですが、よろしいでしょうか。ありがとうございます。それではその他について、事務局より何かございますでしょうか。特にないのですか。はい、わかりました。それでは、第1部の総合計画の予定して

いた議事は、全て終了いたしました。では第1部長時間の会議、お疲れさまでした。一旦ここで休憩をはさみまして、第2部に入ってまいりたいと思います。現在、35分を過ぎたところですので、45分再開ということで、お願いを申し上げます。それでは第1部を終了させていただきます。

以上